

中国・瀋陽市のまちづくりにおけるランドスケープ遺産の保全と活用

○鄧 軻 [東京農業大学農学研究科博士後期課程造園学専攻]

△服部 勉・△粟野 隆・△鈴木 誠 [東京農業大学地域環境科学部造園科学科]

キーワード：中国瀋陽市 ランドスケープ遺産 保全と活用

中国・瀋陽市は清朝発祥地という古都であり、1986年には「歴史文化名城」にも指定され、ランドスケープ遺産も多数存在している。そこで、瀋陽市のランドスケープ遺産の保全と活用に係る各時代の法制度と現行法制度との関係を整理した上で、近年遺産の利活用の展開を調査した。1990年代には、商業、観光事業発展の為に、清時代の盛京城の城門、盛京路の復原など、まちづくりに歴史的遺産を活かす動きが活発化した。また、清時代に制定された自然的遺産の保護政策が、現在の市民生活、都市活動をいまだに制御しながら有効に活用されている事例なども確認できた。このように、瀋陽市ではまちづくりと連携しながら、様々なランドスケープ遺産を位置付け、その展開も保全から、利活用へと相対的にはレベルアップを図っている。しかし、満州植民地時代の歴史的遺産の中には現状保護の段階に留まり、利活用の方向性が不明瞭なものも存在するという課題も残されている。

興望館学童クラブにおける集団遊びの実践

－日常活動とキャンププログラムについて－

○後藤 敬一 [社会福祉法人興望館] △高橋 伸 [国際基督教大学]

東京都墨田区にある社会福祉法人興望館学童クラブは、現在1～6年生まで92名在籍している。本学童クラブでは、2006年4月から定例のプログラムとして、集団遊びを多く取り入れている。現代の子どもたちは、異年齢交流を持つ機会が少なく、放課後も週末も忙しく過ごしている。そのため、たくさんの友人と遊びこむような経験が乏しい。集団遊びは、子どもたちに遊びこむ時間を提供し、また他者を思いやる気持ちや、役割意識等の集団行動において必要な力を養う機会になると考え、力を入れて行っている。

この集団遊びを通して、上級生が主体性を持って遊びを行うようになってきており、下級生に対しての接し方も変化してきた。この効果はキャンププログラムにおいても現れ、子どもたちがプログラムを主体的に進めていく姿勢が、以前より鮮明になってきた。集団遊びで培ったことがキャンププログラムに活かされ、またキャンププログラムから日常へと還元され、好循環が生まれている。

そこで本研究は、日常活動とキャンププログラムの事例を取り上げ実践報告する。